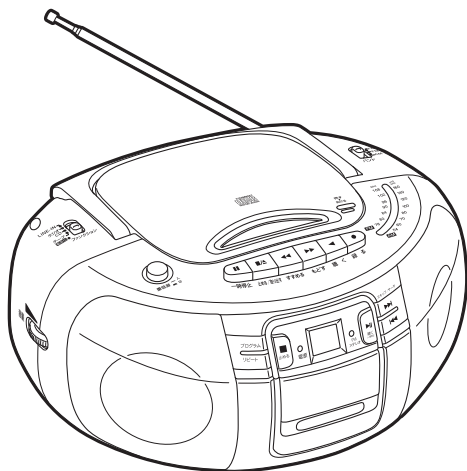


取扱説明書

(保証書付)

このたびはコイズミCDステレオラジカセをお買い上げいただき、まことにありがとうございます。正しくご使用いただくために、ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書には保証書が付いています。お読みになった後は、大切に保管してください。



目次

安全上のご注意	1~3
ご使用になる前に	4
CDについて	4
テープについて	4
結露について	4
各部のなまえ	5~6
電源について	7
家庭用電源で使用するには	7
乾電池で使用するには	7
ラジオを聴く	8
設置場所について	8
CDを聴く	9~11
CDディスプレイの表示について	10
いろいろな演奏のしかた	10~11
リピート演奏	10
プログラム演奏	11
テープを聴く	12
オートストップ機能について	12
外部音声機器を聴く	13
マイクを使用する	13
重低音機能を使用する	14

市販のヘッドホン/イヤホンで聴く	14
録音する	15~18
オートストップ機能について	15
CDから録音する	15
ラジオから録音する	16
外部音声機器から録音する	17
マイクまたは内蔵マイクから録音する	17
CDとマイクから録音する	18
お手入れのしかた	19
本体のお手入れ	19
レンズのお手入れ	19
ヘッド部のお手入れ	19
故障かな?と思ったら	20~21
仕様	22
別売品について	23
アフターサービスについて	25
お客様の個人情報のお取り扱いについて	25
保証・無料修理規定	26
保証書	27
お客様相談窓口	27

安全上のご注意

- *ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。
- *ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人への危害や損害を未然に防止するためのものです。また注意事項は、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を「警告」「注意」の2つに区分しています。いずれも安全に関する重要な内容ですので、必ず守ってください。



警告

誤った取り扱いをしたときに、死亡または重傷を負う可能性があるもの



注意

誤った取り扱いをしたときに、使用者が傷害を負ったり、物的損害の可能性があるもの

絵表示例と絵表示の意味



○ 記号は、禁止の行為であることを告げるものです。図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。



● 記号は、行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜いてください）が描かれています。

※お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られる場所に必ず保管してください。

⚠ 警告



煙や異臭、異音が出たり、落下や破損したときは本体の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜く

そのまま使用すると、事故の原因となります。必ず使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。



本体内部に異物や水などが入った場合は、本体の電源を切り、コンセントから電源プラグを抜く

そのまま使用すると、事故の原因となります。必ず使用を中止し、販売店に修理をご依頼ください。



風呂場では使用しない

火災・感電の原因となります。



本体内部に金属物や燃えやすい物を入れない
事故や故障の原因となります。

電源コードが傷んだら(芯線の露出、断線など)使用しない

火災・感電の原因となります。

表示された電源電圧(AC100V)以外の電圧で使用しない(日本国内専用)

火災・感電の原因となります。

本体の通風孔、カセットホルダーやCDの挿入口などから金属類や燃えやすい物などを差し込んだりしない

お客様のいるご家庭ではご注意ください。

電源コードを傷付けたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、束ねて使用したり、引っ張ったり、加熱したりしない

電源コードが破損して火災・感電の原因となります。

梱包材を子供の手の届く場所に置かない

口や鼻をふさいだり、口に入れるなどして窒息する恐れがあります。

業務用として使用しない また、不特定多数の人が使用する場所に置かない

連続過負荷による故障の恐れがあります。



雷が鳴ったら、機器の金属部や電源プラグに触れない また屋外で使用しない

落雷や誘電雷により感電・やけど・機器の焼損の原因となります。

使用しているときはすぐに機器から離れてください。



ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

感電の原因となることがあります。



改造はしない 修理技術者以外の人は分解したり修理をしない

事故やけがの原因となります。修理はお買い上げの販売店または小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にご相談ください。



電源プラグは清潔にする 刃および刃の取付面にほこりが付着している場合は拭き取る

火災の原因となります。

電源コードの上に重い物を載せたり、電源コードが本体の下敷きにならないようにする

電源コードに傷が付いて、火災・感電の原因となります。

電源コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物を載せてしまうことがあります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

感電・発火・発煙の恐れがあります。

安全上のご注意

⚠ 注意

ぐらついた台の上や傾いた場所など不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。

油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

異常に温度が高くなる場所に置かない

本体の変形・変質・火災・故障の原因となることがあります。異常に温度が高くなる場所、直射日光の当たる高温の場所（自動車内など）には置かないでください。



電源コードを熱器具に近づけない

電源コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

湿気やほこりの多い場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。

レーザー光線をのぞき込まない（CD部）

レーザー光が目にと当たると視力障害を起こすことがあります。

指定以外の乾電池、新しい乾電池と古い乾電池、種類の違う乾電池を混ぜて使用しない

乾電池の発熱・破裂・破損・液漏れにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池は加熱したり、分解したり、火や水の中に入れない

乾電池の発熱・破裂・破損・液漏れにより、火災・けがの原因となることがあります。

テレビ、オーディオ機器などを接続する場合は、それぞれの機器の取扱説明書をよく読み、電源を切り、説明に従って接続する。接続は指定のコードを使用する

乾電池のプラス・マイナスは正しく入れる

乾電池の発熱・破裂・破損・液漏れにより、火災、けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

乾電池は乳幼児の手の届かない場所に保管する
万一飲み込んだ場合には直ちに医師とご相談ください。

始めから音量を上げすぎない

突然大きな音が出て、聴力障害などの原因となることがあります。特にヘッドホンをご使用になるときは注意してください。



旅行などで長期間、ご使用にならないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いておく
火災の原因となることがあります。

お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行う

感電の原因となることがあります。



電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

電源コードが傷付き、火災・感電の原因となることがあります。

移動させる場合は、本体の電源を切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、外部の接続コードをはずしてから行う

接続コードが傷付き、火災・感電の原因となることがあります。

長時間使用しないときは乾電池を取り出しておく

乾電池の液漏れで回路がショートし、火災・けが・汚損の原因となることがあります。



持ち運びするときは、アンテナをたたむ

伸ばしたまま持ち運びすると、アンテナが引かかったり当たるなどして、けがの原因となることがあります。



乳幼児がカセットホルダーやCD挿入口に、手を入れないように注意する

けがの原因となることがあります。

- お客様が録音したものは個人として楽しむ以外は、著作権法上、権利者に無断では使用できません。
- 録り直しのできない録音の場合は、必ず事前に試し録りをしてください。
- 本機の不具合により録音や再生できなかった場合、および録音内容が破損または消去された場合など、いかなる場合においても録音内容の補償についてはご容赦ください。いかなる場合においても当社にて録音内容の修復、復元、複製などはいたしません。
- 地震・雷・風水害などの天災、および当社の責任以外の火災、第三者による行為、その他の事故、お客様の故意または過失・誤用・その他異常な条件下での使用により生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。
- 取扱説明書（本書）の記載内容を守らないことにより生じた損害に関しては、当社は一切責任を負いません。

ご使用になる前に

ご注意

● 次のような場所では使用・保管しないでください。

- 直射日光を浴びる場所や暖房器具のそば。
 - ちりやほこりなどの多い場所。
 - 風呂場など湿気の多い場所。
 - テレビやチューナーなどのそば。
- 雑音や画像の乱れが起こる場合があります。できるだけ離すか、同時使用を避けてください。

● 温度が低い環境で操作されると、まれにCDドアの開閉動作が遅くスムーズでない場合があります。

その場合は、暖かい場所に移動し、しばらくしてから使用してください。

● キャッシュカードや定期券などの磁気カード類、録音テープ、時計などを近づけないでください。

● レンズにほこりが付かないように使用しないときは、CDドアを開けておいてください。またレンズには触らないようにしてください。

● 本体の分解・改造は絶対にしないでください。

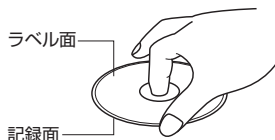
CDについて

CDの種類

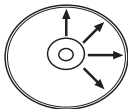
-  マークの入ったディスクをご使用ください。
- CD-R/RWの場合は、CD-DA (Compact Disc Audio) フォーマットで記憶されたディスク(ファイナライズされたもの※)を再生することができます。ただし、ディスクおよび記録に使用したレコーダーの状態によっては再生できない場合があります。
※音楽用CD-R/RW再生対応機器で再生できるように処理すること。
- コピーコントロールCDやCD規格外の特形状ディスクを使用される場合、再生・音質の保証はしかねます。

CDの取り扱い

※記録面に触れないように、CDの端を持ってください。



※CDに指紋や汚れが付いたときは、やわらかい布などで、中心から端へと拭き取ってください。



※記録面やラベル面に、紙やテープなどを貼らないでください。またラベルがはがれたCDは使用しないでください。



ご注意

円形以外(ハート型など特形状)のディスク、ひびや反りのあるディスクは絶対に使用しないでください。

テープについて

90分を超えるテープの使用はおやめください。

他のテープに比べ非常に薄いため、伸びたり、回転部分に巻き込まれやすくなります。

テープの種類

- 録音にはノーマルポジションテープをお使いください。ハイポジション、メタルポジションテープでは、録音済みテープに録音すると、前に録音した内容が消去されず重なって録音されますので、再生しても正常に聞き取れません。また未使用のテープに録音しても十分に性能を発揮できません。



- エンドレステープは使用できません。

テープの取り扱い

※使用前にテープのたるみを取り除いてください。
テープが機械に巻き込まれることがあります。

ご注意

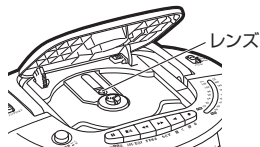
カセットテープ自体の回転が重たい場合にはデッキのピンチローラーにテープが絡む場合がありますので、次のようなときにはご注意ください。

- カセットテープケースに歪みや変形がある場合
- 長年の使用でテープが劣化し、テープに波打ち伸びがある場合
- 寒い部屋から急に暖かい部屋に持ち込んだためテープ全体に結露した場合
- テープがひどく汚れて回転が重い場合など

結露について

周辺の温度が急激に変化した場合、レンズが結露することがあります。レンズに水滴が付いた状態では正しく演奏できません。

このような場合、電源を入れ、CDドアを開けたまま約1～2時間経ってから使用を開始してください。



各部のなまえ

正面

ロッドアンテナ

「重低音」ボタン

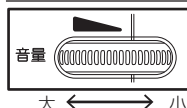
(=入/■切)

「ファンクション」スイッチ

(LINE-IN/ラジオ/CD/テープ 電源切)



「音量」ダイヤル



スピーカー

内蔵マイク

カセットホルダー

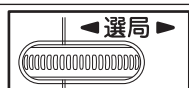
CDドア

「バンド」スイッチ
(FMステレオ/FM/AM)



ダイヤル目盛

「選局」ダイヤル



「押す-あける」ボタン

スピーカー

「FMステレオ」ランプ

(FMステレオ放送受信時に点灯します。)

CDディスプレイ

「電源」ランプ

(電源が入ると点灯します。)

背面

ハンドル

「ヘッドホン」端子

市販のヘッドホン/イヤホン
(φ3.5mmステレオミニプラグ)
をつなぎます。
(P. 14参照)

「LINE IN」端子

外部音声機器と市販の接続コード
(φ3.5mmステレオミニプラグ)
をつなぎます。(P. 13参照)

「AC IN」端子

(電源コード差込口)

「マイク音量」つまみ

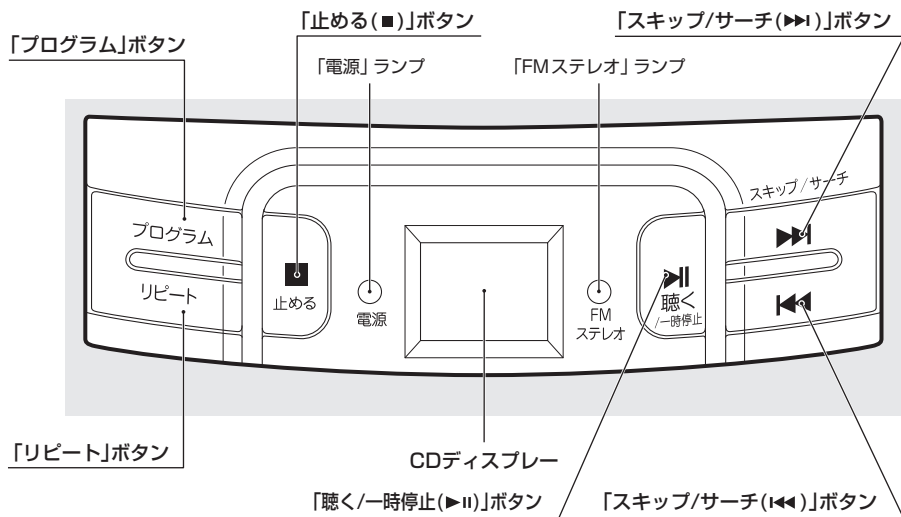
(小~大)

「マイク」端子

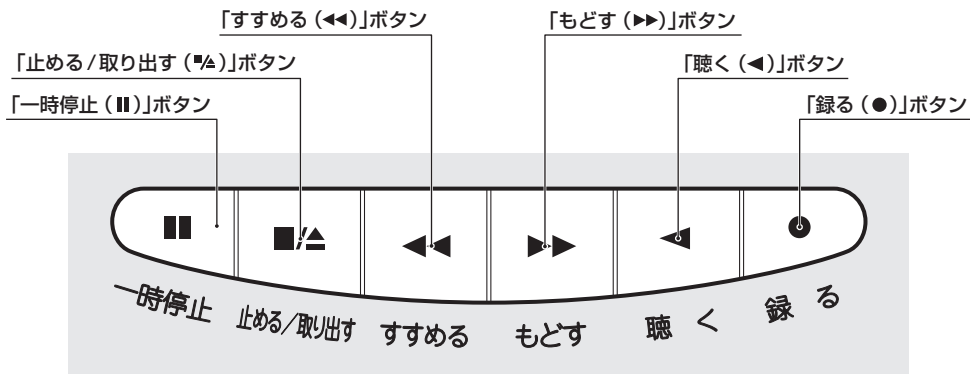
付属のマイクをつなぎます。
(P. 13参照)

電池ぶた

CD操作部



テープ操作部



付属品

※以下の付属品が同梱されていることを確認してください。

●電源コード

●マイク (型番：SAD-M7)

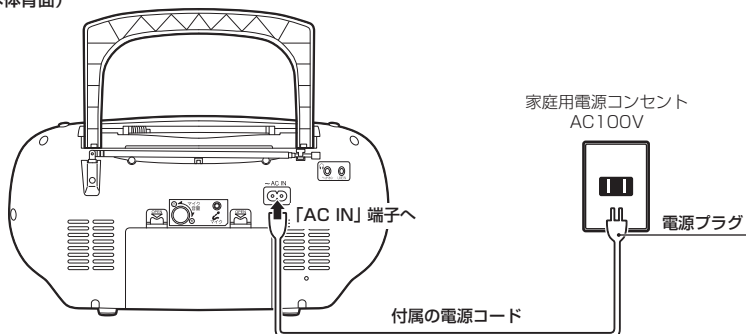


電源について

家庭用電源で使用するには

1. 電源コードの供給プラグを本体の「AC IN」端子へ差し込む。
2. 電源プラグをコンセントへ差し込む。

(本体背面)



※付属の電源コードは、SAD-4947専用です。
他の製品には使用しないでください。

ご注意

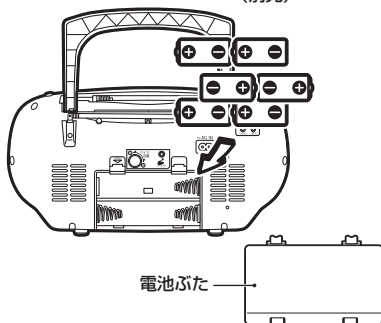
- 電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに必ず電源プラグを持って引き抜いてください。
感電やショートして発火することがあります。
- 電源コードの上に重い物を載せないでください。
電源コードに傷が付いて、火災や感電の原因となります。

乾電池で使用するには

※乾電池(別売)で使用するときは、電源コードの供給プラグを本体の「AC IN」端子から抜いてください。
電源コードが差し込まれていると乾電池で使用できません。

1. 電池ぶたを開ける。
2. 単2形アルカリ乾電池6本(別売)を
右図のように入れ、電池ぶたを閉める。

(本体背面) 単2形乾電池6本
(別売)



ご注意

乾電池の発熱・破裂・破損・液漏れ防止のために次のことはお守りください。

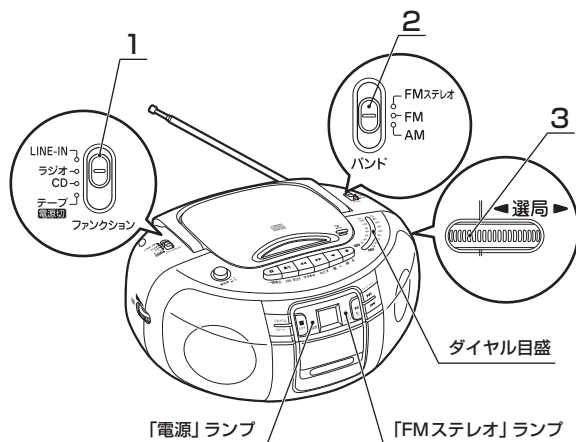
- 長時間使用しないときは、乾電池を取り出しておいてください。
長時間未使用の場合、液漏れを起こすことがあります。
- 使い切った乾電池はすぐに取り出し、分別廃棄してください。
- 種類の違う乾電池、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- ⊕プラスと⊖マイナスは正しく入れてください。
- 火の中への投入や、ショート、分解、加熱などはしないでください。

乾電池の交換目安

乾電池が消耗してくると、CDやテープが正常に動作しない、音が小さくなる、雑音が多くなるなどの現象が生じます。
新しい乾電池と交換してください。

ラジオを聴く

1. 「ファンクション」スイッチを
[ラジオ]にする。
 • 「電源」ランプが点灯します。
2. 「バンド」スイッチで[FMステレオ]
[FM] [AM]のいずれかを選ぶ。
3. 「選局」ダイヤルで聴きたい局を
選ぶ。
 • ダイヤル目盛を目安に選局してください。
 • FMステレオ放送受信時は、
「FMステレオ」ランプが点灯します。



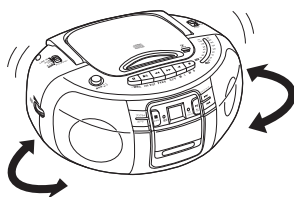
音量を調節する	「音量」ダイヤルを回す。	FMステレオ放送で 雑音が多い場合	「バンド」スイッチで[FM]に切り替える。 (ステレオになりませんが、聴こえやすくなる場合があります。)
ラジオを切る	「ファンクション」スイッチを[テープ電源切]にする。		

設置場所について

ラジオをきれいな音でお楽しみになるには、なるべく窓ぎわの電波の届きやすい場所に置いてご使用ください。

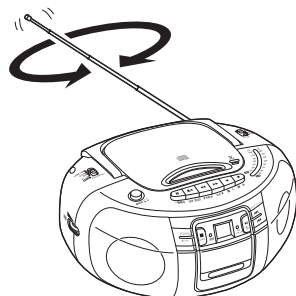
AM放送の場合

本体の向きを調節し、最もよく聴こえる場所に設置してください。
(アンテナは本体内蔵)



FM放送の場合

ロッドアンテナを伸ばし、最もよく聴こえる方向に向けてください。

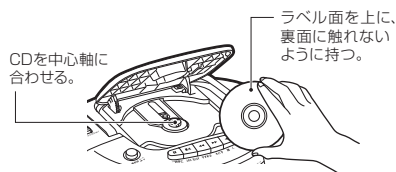


CDを聴く

1. 「ファンクション」スイッチを[CD]にする。

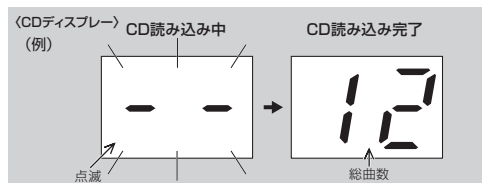
- 「電源」ランプが点灯します。

2. 「押す-あける」ボタンを押してCDドアを開け、CDをセットする。



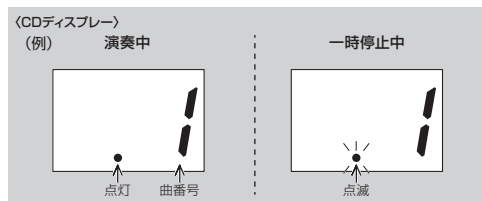
3. 「押す-あける」ボタンを押してCDドアを閉じる。

- 「カチッ」と音がするまでCDドアをしっかりと閉めます。
- CDディスプレイに総曲数が表示されます。



4. CD操作部の「聴く/一時停止(▶||)」ボタンを押す。

- 1曲目から演奏が始まります。

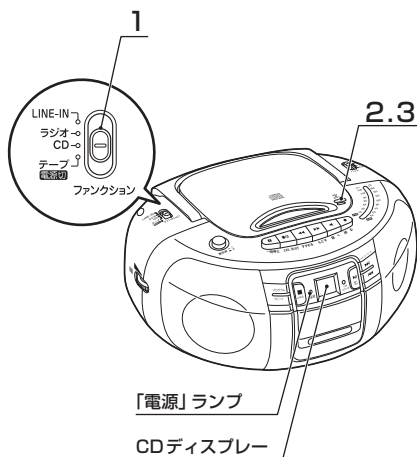


- 全曲の演奏が終わると、自動的に停止します。

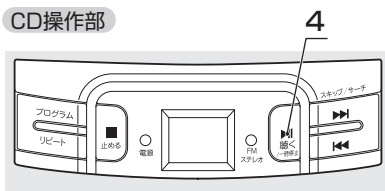
※CD-R/RWに記録されたCD、コピーガード付きのCDは再生できない場合があります。

ご注意

- CDドアを開けるときは、ハンドルをたたくでください。
- CDドア内部にCDレンズ保護シートがはめられています。ご使用前に保護シートを取りはずしてください。



CD操作部



音量を調節する	「音量」ダイヤルを回す。	早送り・早戻しする	演奏中に CD操作部の「スキップ/サーチ(◀▶)」ボタンを押し続ける。 ●ボタンから指を離すと演奏に戻る。
演奏を止める	CD操作部の「止める(■)」ボタンを押す。	曲の頭を探す	演奏中に CD操作部の「スキップ/サーチ(◀▶)」ボタンを押す。 一時停止中/停止中に CD操作部の「スキップ/サーチ(◀▶)」ボタンで聴きたい曲を選んだ後、CD操作部の「聴く/一時停止(▶)」ボタンを押す。
一時停止する	CD操作部の「聴く/一時停止(▶)」ボタンを押す。 ●演奏に戻るにはもう一度押す。		

CDディスプレイの表示について

CDディスプレイに「」が表示される場合、以下の項目を確認してください。

- CDが正しくセットされていますか？
- CDの表裏を間違えていませんか？
- レンズが汚れていませんか？(P. 19参照)
- CDが汚れたり、傷付いていませんか？
- 使用できないCDを挿入していませんか？(P. 4参照)

※正常に作動しているときは、CDディスプレイに数字で曲数(99曲まで)が表示されます。

ご注意

- 本機は、CD-R/RW録音機器で作成した音楽用CD-R/RWディスクの再生も可能です。ただし、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。
- CD-R/RWを入れた場合、演奏できる状態になるまで15秒前後かかります。
- コピーガード付きのCDは再生できない場合があります。
- 直接音楽ファイルを記録したCD(MP3ディスクやWMAディスクなど)は再生できません。

いろいろな演奏のしかた

リピート演奏

CD操作部の「リピート」ボタンを押す。

- 押すごとに設定が変わります。

1曲繰り返し …… お好みの1曲を繰り返し演奏します。

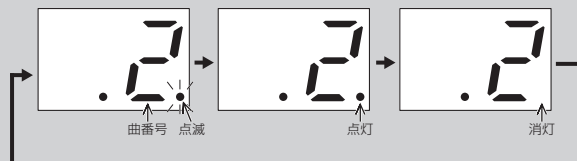
全曲繰り返し …… 全曲を繰り返し演奏します。

〈CDディスプレイ〉〈例〉

1曲繰り返し

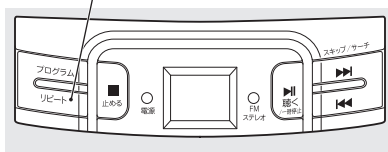
全曲繰り返し

通常演奏



CD操作部

「リピート」ボタン



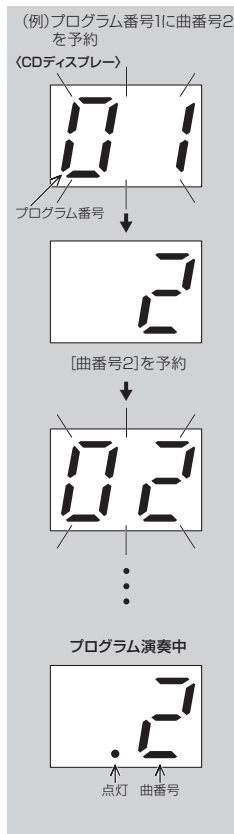
CDを聴く

いろいろな演奏のしかた (つづき)

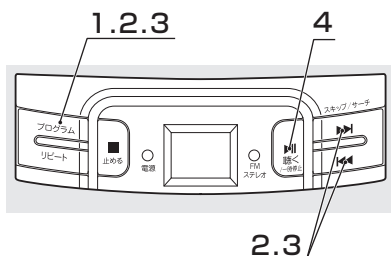
プログラム演奏 (お好みの曲を予約順に聴く)

停止中に

1. CD操作部の「プログラム」ボタンを押す。
2. CD操作部の「スキップ/サーチ」(◀▶)ボタンでお好みの曲を選び、「プログラム」ボタンを押す。
 - 予約が確定され、次のプログラム番号が表示されます。
3. 上記2の操作を繰り返し、予約していく。
 - 最大20曲まで予約することができます。
 - 20曲予約すると、予約した順番に曲番号が表示されます。
4. CD操作部の「聴く/一時停止」(▶||)ボタンを押す。
 - プログラム演奏が始まります。



CD操作部



プログラム演奏を
停止する

CD操作部の「止める(■)」ボタンを押す。

一度停止した後
同じプログラムで
演奏する

CD操作部の「聴く/一時停止(▶||)」
ボタンを押す。

プログラム演奏を
解除する

プログラム演奏停止中に CD操作部の「止める(■)」ボタンを押す。

CDドアを開ける。

「ファンクション」スイッチを[ラジオ]または[テープ **電源切**]にする。

テープを聴く

※ノーマルテープ（TYPE1）をお使いください。（P. 4参照）
※90分を超えるテープの使用はおやめください。

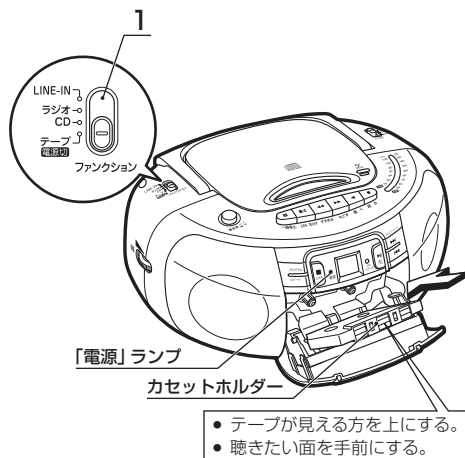
1. 「ファンクション」スイッチを
[テープ電源切]にする。

2. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」
ボタンを押してカセットホルダーを開き、
カセットテープを入れてカセットホルダー
を閉める。

- カセットテープをカセットホルダーに沿って図のように正しく入れてください。（テープは右から左へ走行します。）
- 「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかり閉めます。

3. テープ操作部の「聴く(◀)」ボタンを押す。

- 「電源」ランプが点灯し、演奏が始まります。
- 全曲の演奏が終わると、自動的に停止します。



音量を調節する	「音量」ダイヤルを回す。	テープ操作部の「すすめる(◀◀)」ボタンまたは「もどす(▶▶)」ボタンを押す。 ●演奏に戻るにはテープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押してから、「聴く(▶)」ボタンを押す。 ご注意 ●テープ操作部の「すすめる(◀◀)」ボタンまたは「もどす(▶▶)」ボタンが押されているときに「聴く(▶)」ボタンを押さないでください。必ず「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押してから「聴く(▶)」ボタンを押してください。 ●テープ操作部の「すすめる(◀◀)」ボタンまたは「もどす(▶▶)」ボタンでテープが最後まで巻き取られたら、「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押してください。
演奏を止める	テープ操作部の「止める/ 取り出す(■/▲)」ボタンを押す。	
一時停止する	テープ操作部の 「一時停止(■)」ボタンを押す。 ●演奏に戻るにはもう一度押す。	

オートストップ機能について

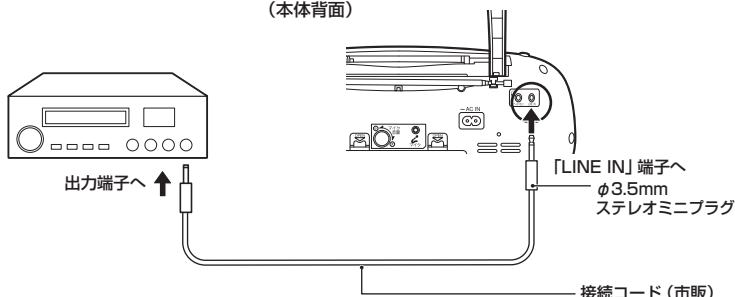
再生状態のときテープが最後まで巻き取られるとテープ操作部の「聴く(▶)」ボタンが自動的に停止し、電源が切れるようになっています。

外部音声機器を聴く

■外部の音声機器をつないで、本機をスピーカーとして使用することができます。

1. 本体の「LINE IN」端子と外部音声機器の音声出力端子を接続コード(市販)でつなぐ。

(本体背面)



接続コード (市販)

- お手持ちの機器の出力端子にあったプラグ形状の接続コードをご使用ください。

2. 「ファンクション」スイッチを[LINE-IN]にする。

- 「電源」ランプが点灯します。

3. 接続した外部音声機器の演奏を始める。

ご注意

外部音声機器を聴くとき以外は、接続コードを本体から取りはずしてください。

音量に過不足を感じる時

本機と外部音声機器の両方の音量を調節する。

※外部音声機器の出力が小さく、音がうまく聴こえない場合があります。

マイクを使用する

■付属のマイクを本機につないで、スピーカーからマイクの音声を出すことができます。

1. 「マイク」端子にマイクを接続する。

2. 「ファンクション」スイッチを[テープ電源切]にして、テープ操作部の「聴く(◀)」ボタンを押す。

または、「ファンクション」スイッチを[LINE-IN]にする。

※カセットテープを入れなくても動作します。

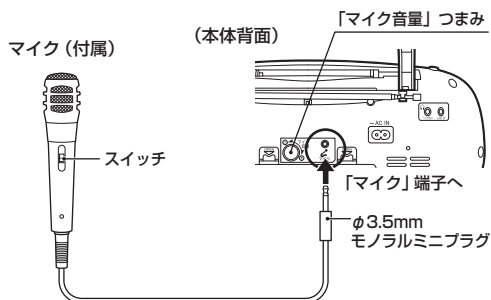
※CD再生中でも、マイクを使用できます。

3. マイクのスイッチを入れる。

- マイクの音声スピーカーから出ます。
- ※付属マイク以外のマイク接続時は、音声は出ません。

音量を調節する

本体背面の「マイク音量」つまみを回す。



ご注意

- マイクを接続すると、内蔵マイクはOFFになります。
- マイク使用中、ハウリング (ピーという音) が起きたら、マイクをスピーカーから離すか、音量を下げてください。
- マイクを使用しないときは、「マイク」端子からマイクを取りはずしてください。

重低音機能を使用する

■低音を強調した音質に調節することができます。

「重低音」ボタンを押して[—入]にする。

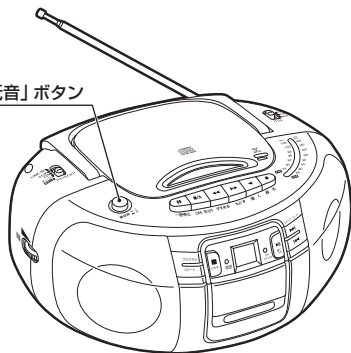
ご注意

音源によっては効果の少ない場合があります。

重低音機能を
解除する

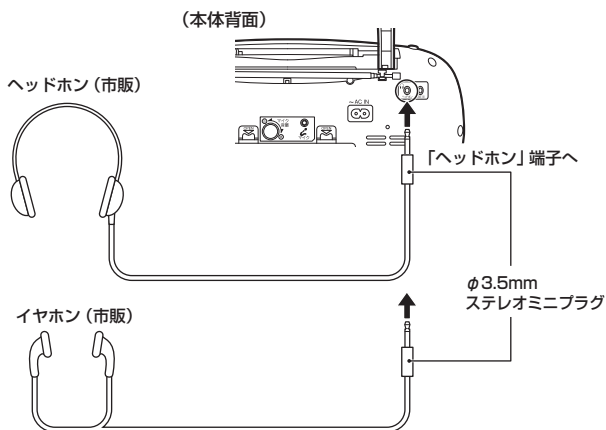
「重低音」ボタンを押して[■切]にする。

「重低音」ボタン



市販のヘッドホン/イヤホンで聴く

■市販のヘッドホン/イヤホンの本機につないで、演奏を聴くことができます。



ご注意

- ヘッドホン/イヤホンの本機につなぐときは、本機の音量を下げてください。
- 耳を刺激するような大きな音量で長時間聴くことは避けてください。

録音する

ご注意

テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押すとテープ操作部の「聴く(◀)」ボタンも一緒に押し込まれます。テープが入っていないときや、カセットテープの消去防止用のツメが折れているとき、「録る(●)」ボタンは押し込みません。無理に押さないでください。

録音済みのテープの誤消去防止のために

カセットテープ底面にあるツメをドライバーなどで根本から折っておくと、録音操作ができなくなります。接着テープなどで穴をふさぐと再び録音することができます。

誤消去防止用のツメ

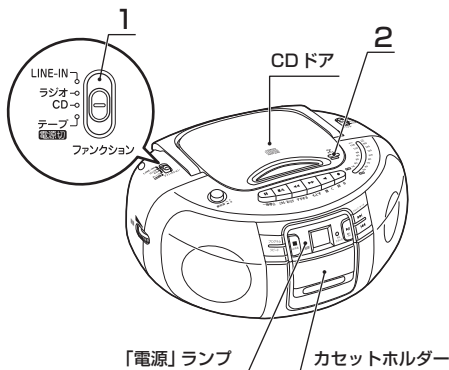


オートストップ機能について

テープが最後まで巻き取られるとテープ操作部の「録る(●)」ボタンと「聴く(◀)」ボタンが自動的に停止し、電源が切れるようになっています。

CDから録音する

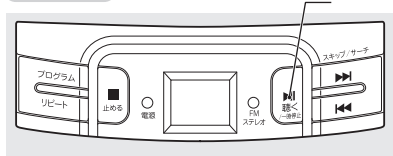
1. 「ファンクション」スイッチを[CD]にする。
 - 「電源」ランプが点灯します。
2. 「押す-あける」ボタンを押してCDドアを開けCDをセットし、CDドアを閉じる。
 - 「カチッ」と音がするまでCDドアをしっかりと閉めます。
3. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押してカセットホルダーを開き、カセットテープを入れてカセットホルダーを閉める。
 - 「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかりと閉めます。
4. テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押す。
 - テープが走行し録音が始まります。
5. CD操作部の「聴く/一時停止(▶/◀)」ボタンを押す。
 - 録音中の音声がスピーカーから出ます。



テープ操作部



CD操作部



録音を止める

テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押して、CD操作部の「止める(■)」ボタンを押す。

一時停止する

テープ操作部の「一時停止(■)」ボタンを押す。
• 録音に戻るには「一時停止(■)」ボタンを押す。

※ 録音音量は自動的に調整されます。録音中に音量を変更しても、録音される音量には影響しません。

ラジオから録音する

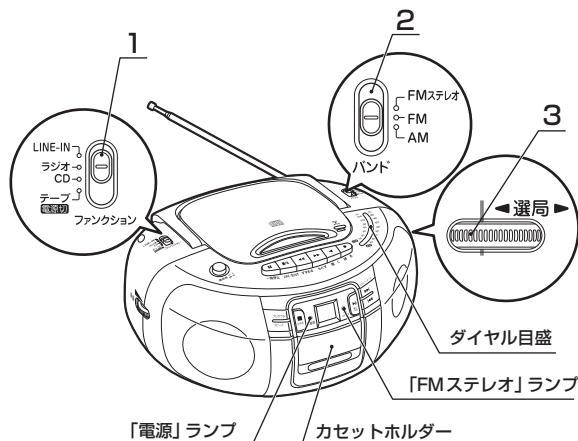
ご注意

●ラジオを録音する際は、電波の届きやすい場所で行ってください。

1. 「ファンクション」スイッチを
[ラジオ]にする。
●「電源」ランプが点灯します。
2. 「バンド」スイッチで[FMステレオ]
[FM] [AM]のいずれかを選ぶ。

3. 「選局」ダイヤルで録音したい局を
選ぶ。

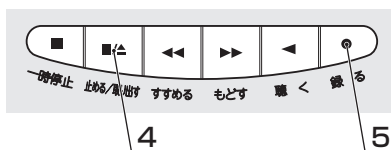
- ダイヤル目盛を目安に選局してください。
- FMステレオ放送受信時は、
「FMステレオ」ランプが点灯します。



4. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを
押してカセットホルダーを開き、カセットテープを
入れてカセットホルダーを閉める。

- 「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかり閉めます。

テープ操作部



5. テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押す。

- テープが走行し録音が始まります。
- 録音中の音声がスピーカーから出ます。

録音を止める

テープ操作部の「止める/
取り出す(■/▲)」ボタンを押す。

一時停止をする

テープ操作部の
「一時停止(■)」ボタンを押す。
●録音に戻るには「一時停止(■)」ボタンを押す。

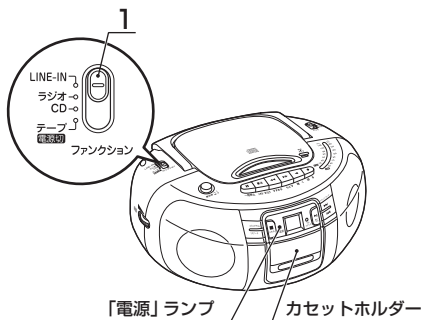
※録音音量は自動的に調整されます。録音中に音量を変更しても、録音される音量には影響しません。

録音する

外部音声機器から録音する

※あらかじめ外部音声機器を接続してください。(P. 13参照)

1. 「ファンクション」スイッチを
[LINE-IN]にする。
●「電源」ランプが点灯します。
2. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」
ボタンを押してカセットホルダーを開き、
カセットテープを入れてカセットホルダー
を閉める。
●「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかり閉めます。
3. テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押す。
●テープが走行し、録音が始まります。
4. 接続した外部音声機器の演奏を始める。
●録音中の音声スピーカーから出ます。



テープ操作部



録音音量に
過不足を
感じるとき

外部音声機器の音量を最大にする
などして調節する。

※外部音声機器の出力が小さいと、
うまく録音できない場合があります。

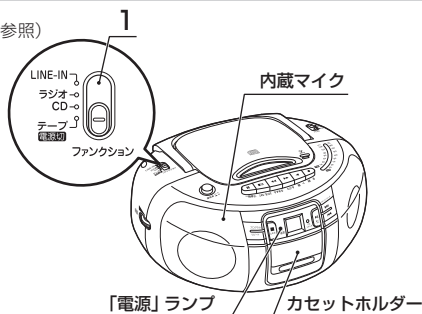
ご注意

外部音声機器からの録音が終わったら、接続コードを本体から取りはずしてください。

マイクまたは内蔵マイクから録音する

※マイクから録音する場合は、あらかじめマイクを接続してください。(P. 13参照)

1. 「ファンクション」スイッチを
[テープ電源切]にする。
2. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」
ボタンを押してカセットホルダーを開き、
カセットテープを入れてカセットホルダー
を閉める。
●「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかり閉めます。
3. マイクから録音する場合は、マイクのスイッチ
を入れる。
4. テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押す。
●「電源」ランプが点灯してテープが走行し、録音が始まります。
●録音中の音声スピーカーから出ます。



テープ操作部



マイクからの
録音音量を調節する

本体背面の
「マイク音量」つまみを回す。

※内蔵マイクから録音する場合は、録音中に音量を変更しても、録音される音量には影響しません。

ご注意

- マイクを接続すると、内蔵マイクはOFFになります。
- マイク使用中、ハウリング（ビーという音）が起きたら、マイクをスピーカーから離すか、音量を下げてください。
- マイクを使用しないときは、「マイク」端子からマイクを取りはずしてください。
- 内蔵マイクから録音するときは、内蔵マイクに近づいて録音してください。内蔵マイクから離れ過ぎると、うまく録音できない場合があります。

CDとマイクから録音する

■CDとマイクの両方の音声を同時に録音することができます。

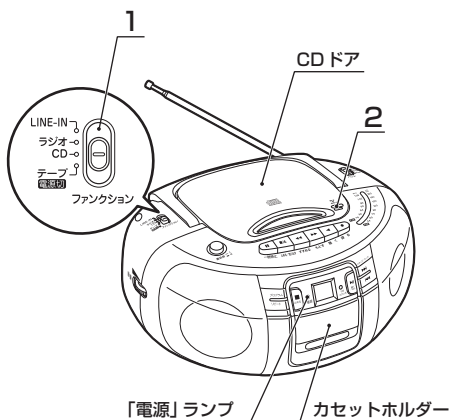
※あらかじめマイクを接続してください。(P. 13 参照)

1. 「ファンクション」スイッチを[CD]にする。

- 「電源」ランプが点灯します。

2. 「押す-あける」ボタンを押してCDドアを開けCDをセットし、CDドアを閉じる。

- 「カチッ」と音がするまでCDドアをしっかりと開めます。



3. テープ操作部の「止める/取り出す(■/▲)」ボタンを押してカセットホルダーを開き、カセットテープを入れてカセットホルダーを閉める。

- 「カチッ」と音がするまでカセットホルダーをしっかりと閉めます。

テープ操作部

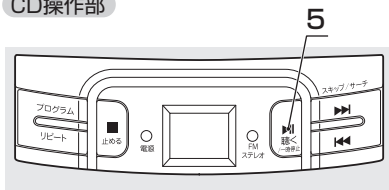


4. マイクのスイッチを入れる。

5. テープ操作部の「録る(●)」ボタンを押し、CD操作部の「聴く/一時停止(▶||)」ボタンを押す。

- テープが走行し録音が始まります。
- 録音中の音声スピーカーから出ます。

CD操作部



マイクからの
録音音量を
調節する

本体背面の
「マイク音量」つまみを回す。

※CDからの録音音量は自動的に調整されます。録音中に音量を変更しても、録音される音量には影響しません。

ご注意

- マイクを接続すると、内蔵マイクはOFFになります。
- マイク使用中、ハウリング（ピーという音）が起きたら、マイクをスピーカーから離すか、音量を下げてください。
- マイクを使用しないときは、「マイク」端子からマイクを取りはずしてください。

お手入れのしかた

※必ず「ファンクション」スイッチを[テープ 電源切]にして電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。

本体のお手入れ

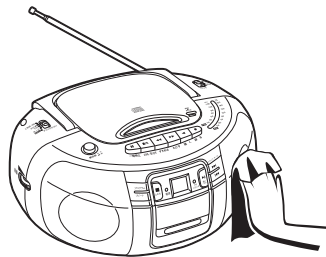
乾いた布などで拭いてください。

汚れがひどいとき

中性洗剤を薄めて布に含ませ、よく絞ってから汚れを拭き取ってください。その後、洗剤が残らないように乾いた布でもう一度拭き取ってください。

ご注意

ベンジンやアルコール、シンナーなどでは拭かないでください。
本体を傷める原因となります。



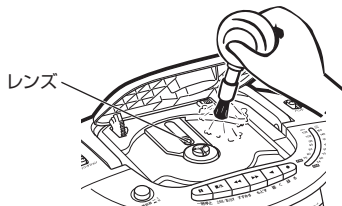
レンズのお手入れ

ごみやほこりが付いた場合

レンズを市販のブロアーで2〜3回吹き、ブロアー先端のブラシでごみやほこりを吐き出します。最後にもう一度レンズをブロアーで吹いてください。

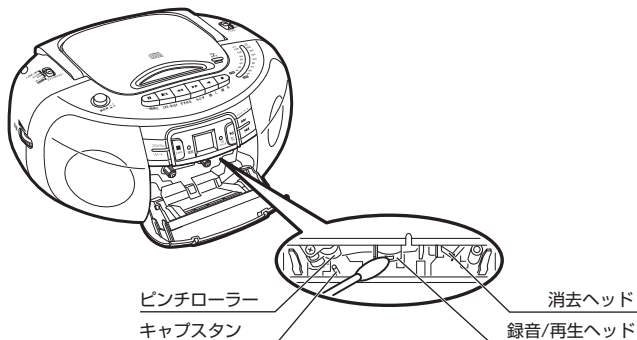
ご注意

レンズには指紋や汚れを付けないようにしてください。



ヘッド部のお手入れ

ヘッド部にごみやほこりなどが付着すると音質劣化や消去不良を招きます。
市販の綿棒ややわらかい布にアルコールを軽く含ませて、各ヘッドを月に1〜2回掃除してください。



故障かな？と思ったら

症 状	チェックポイント	処置のしかた
電源が入らない。	乾電池は正しい方向で入っていますか？	乾電池の＋－を確かめてください。(P. 7 参照)
	電源コードがはずれていませんか？	正しく接続してください。(P. 7 参照)
音が出ない。	「ヘッドホン」端子にコードが差し込まれていませんか？	コードを抜いてください。(P. 14 参照)
カセットテープが入らない。	テープの向きは正しいですか？	テープを正しく入れてください。(P. 12 参照)
「録る(●)」ボタンが押しこめない。	カセットの誤消去防止用ツメが折れていませんか？	ツメの折れていないカセットを使用するか、接着テープなどで穴をふさいでください。(P. 15 参照)
テープの回転ムラがある。	乾電池が古くなっていませんか？	新しい乾電池をご使用ください。
	テープがたるんでいませんか？	テープのたるみを直してからカセットテープを入れてください。
	巻き取りムラができていませんか？	テープを全部巻き直してみてください。
テープの再生音が悪い。	ヘッド部が汚れていませんか？	市販の綿棒ややわらかい布でヘッド部を定期的に掃除してください。(P. 19 参照)
テープの再生音が歪む。	ハイポジション、メタルポジションテープを使っていますか？	ノーマルポジションテープを使用してください。
テープが巻き付く。	ピンチローラーやキャプスタンが汚れていませんか？	市販の綿棒ややわらかい布を使って、ピンチローラー・キャプスタンを掃除してください。(P. 19 参照)
	テープがたるんでいませんか？	テープのたるみを直してからカセットテープを入れてください。
テープが絡んだ。	カセットテープが古くありませんか？	無理な取り出しをせず、お買い上げの販売店か小泉成器株式会社「お客様相談窓口」に修理を依頼してください。(P. 27 参照)
前の録音が消えない。	消去ヘッドが汚れていませんか？	市販の綿棒ややわらかい布で掃除してください。(P. 19 参照)
	ハイポジション、メタルポジションテープを使っていますか？	ノーマルポジションテープを使用してください。

故障かな？と思ったら

症 状	チェックポイント	処置のしかた
CDの演奏が始まらない。 CDが入っているのに「No」と表示する。	→ 乾電池が消耗していませんか？	→ 新しい乾電池と交換してください。
	→ CDの表裏を間違えていませんか？	→ ラベル面を上にしてください。
	→ レンズが汚れていませんか？	→ 「お手入れのしかた」を参考にクリーニングしてください。(P. 19 参照)
	→ レンズに霧や水滴が付いていませんか？	→ CDを取り出してCDドアを開け、1～2時間ほど置いてください。
	→ CDが汚れていませんか？	→ 汚れを落としてください。
	→ ファイナライズ処理(通常のCDプレーヤーで再生できるようにする処理)をされていないCD-R/CD-RWディスクは再生できません。	
	→ CD-R/CD-RWでは、ディスクや記録に使用したレコーダーの状態によって再生できない場合があります。	→ ディスクを替えて試してください。
CDの音が飛ぶ。	→ 強い振動を与えていませんか？	→ 振動を与えないでください。
	→ CDがひどく汚れていませんか？	→ 汚れを落としてください。
	→ CDに大きな傷はありませんか？	→ CDを替えて試してください。
	→ 乾電池が消耗していませんか？	→ 新しい乾電池と交換してください。
ラジオに雑音が入る。	→ 電波の届きやすい場所に置いていますか？	→ 設置場所を確認してください。(P. 8参照)
	→ テレビと同時に使用していませんか？	→ テレビから離してください。 またはテレビの電源を切ってください。
マイクの音が出ない	→ マイクのスイッチが入っていますか？	→ マイクのスイッチを入れてください。
	→ 「マイク音量」つまみが最小になっていませんか？	→ 「マイク音量」つまみを調節してください。
	→ 「マイクを使用する」の手順に沿って、マイクと本体の接続状態を確認してください。(P. 13 参照)	

仕様

※本機の仕様および外観については、改良のため予告なく変更することがあります。

※電池持続時間：乾電池の種類や使用状況（音量など）、環境によって異なることがあります。

受信周波数	FM:76~108MHz AM:522~1629kHz	電池持続時間 (アルカリ乾電池使用時)	テープ再生時 :約30時間 CD再生時 :約16時間 ラジオ受信時 :約60時間
アンテナ	FM:ロッドアンテナ AM:フェライトバーアンテナ内蔵	消費電力	11W
トラック方式	ステレオ	最大外形寸法	(ハンドルを立てたとき) 約310(幅)×245(奥行)×245(高さ)mm (ハンドル収納時) 約310(幅)×245(奥行)×155(高さ)mm
スピーカー	7.7cm(8Ω)×2個	質量	約2.0kg(乾電池含まず)
出力端子	ヘッドホン端子(φ3.5mmステレオミニプラグ)	電源コードの長さ	約1.7m
入力端子	マイク端子(φ3.5mmモノラルミニプラグ) LINE IN端子(φ3.5mmステレオミニプラグ)	付属品	電源コード、マイク(型番:SAD-M7)
実用最大出力	1W+1W		
電源	2電源方式 ●AC100V 50/60Hz(付属電源コード使用時) ●DC9V 単2形アルカリ乾電池×6本(別売)		

●マイク（型番：SAD-M7）

出力インピーダンス	600Ω以下	コードの長さ	約2.3m
周波数特性	80 ~11000Hz	種類	ダイナミック型

別売品について

マイクは別売品としてお買い求めいただけます。

別売品を依頼される場合は、お買い上げの販売店か、小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

名 称	型 番
マイク	SAD-M7

アフターサービスについて

1. 保証書

- この取扱説明書には保証書が付いています。
保証書はお買い上げの販売店による「販売店名・お買い上げ日」などの記入をご確認の上、内容をよくお読みの後、大切に保管してください。保証期間はお買い上げ日から1年間です。

2. 修理を依頼されるとき

- 保証期間中は
商品に保証書を添えてお買い上げの販売店にご持参ください。保証の記載内容により無料修理いたします。
- 保証期間が過ぎているときは
お買い上げの販売店にご相談ください。修理により使用できる場合は、お客様のご要望により有料修理いたします。

3. 補修性能部品の保有期間

- CDステレオラジカセの補修性能部品の保有期間は製造打切後6年です。
補修性能部品とはその製品の機能を維持するために必要な部品です。

4. アフターサービスについてご不明の場合

- アフターサービスについてご不明の場合には、お買い上げの販売店か小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

愛情点検		★長年ご使用の音響機器の点検を！	
	ご使用の際 このようなことは ありませんか		ご使用 中 止
		このような症状のときは、故障や事故防止のため、電源を切り、コンセントから電源プラグを抜いて必ず販売店にご相談ください。	

お客様の個人情報のお取り扱いについて

お預かりしましたお客様の個人情報は当社個人情報保護方針に基づき適切に管理いたします。また、お客様の同意がない限り、業務委託をする場合および法令に基づき必要と判断される場合を除き、第三者への開示は行いません。

〈利用目的〉

お預かりしました個人情報は、商品・サービスに関わるご相談・お問い合わせおよび修理対応のみを目的として使用させていただきます。

なお、この目的のために小泉成器株式会社および関係会社で上記個人情報を利用することがあります。

〈業務委託の場合〉

上記目的の範囲内で対応業務を委託する場合、委託先に対しては当社と同等の個人情報保護を実施させるとともに適切な管理・監督をいたします。

保証・無料修理規定

1. 取扱説明書、本体貼付ラベル等の注意書に従った**正常な使用状態で保証期間内に故障**した場合、**「無料修理」**致します。
2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、**商品と本書をご持参ご提示の上、お買い上げの販売店にご依頼ください。**
3. **ご購入、ご購入品等**で本保証書に記入してあるお買い上げの販売店に修理がご依頼できない場合には、取扱説明書の小泉成器株式会社「お客様相談窓口」へご相談ください。
4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
 - (イ) 使用上の誤りおよび不当な修理や改造による故障および損傷。
 - (ロ) お買い上げ後の落下等による故障および損傷。
 - (ハ) 火災、地震、落雷、水害、その他の天災地変、異常電圧による故障および損傷。
 - (ニ) 一般家庭用以外（例えば業務用の長時間使用、車輛、船舶への搭載）に使用された場合の故障および損傷。
 - (ホ) 本書のご提示がない場合。
 - (ヘ) 本書にお買い上げ年月日、お客様名、販売店名の記入のない場合、あるいは字句を書き換えた場合。
 - (ト) 譲渡、転売、リサイクル店（中古品）、中古販売店、オークション等により入手された場合。
5. 保証期間内でも商品を修理窓口へ送付された場合の送料はお客様の負担となります。
6. 本書は日本国内においてのみ有効です。日本国外からの修理依頼や補修用部品・消耗部品の発送依頼には対応していません。
Effective only in Japan. We do not offer repair service or dispatch maintenance parts or consumables internationally.
7. 本書は再発行致しませんので、紛失しないよう大切に保管してください。

修理メモ

※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によって保証書を発行している者（保証責任者）、およびそれ以外の事業者に対するお客様の法律上の権利を制限するものではありません。保証期間経過後の修理等についてご不明の場合は、お買い上げの販売店、または取扱説明書の小泉成器株式会社「お客様相談窓口」にお問い合わせください。

※保証期間経過後の修理について詳しくは取扱説明書の「アフターサービスについて」をご覧ください。

CDステレオラジカセ

保証書 持込修理

本書は、本書記載内容（裏面記載）で無料修理を行うことをお約束するものです。
お買い上げの日から下記期間中故障が発生した場合は、本書をご提示の上、お買い上げの販売店に修理をご依頼ください。

型番	SAD-4947		
お買い上げ年月日	年	月	日
無料修理保証期間	対象部分 本体	期間（お買い上げ日より）	1 年
お客様	お名前	様	
	ご住所	〒 TEL	
販売店	店名・住所・電話		

★販売店の皆様へのお願い 必ず全項目をご記入、ご捺印の上、お客様にお渡しください。
小泉成器株式会社 本社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号 TEL.06(6268)1423

お客様相談窓口

製品のお問い合わせ、修理に関するご相談、部品の購入に関するご相談は



ナビダイヤル（全国共通番号）

0570 (07) 5555

※ナビダイヤルがご利用いただけない場合 **TEL. 03 (3570) 6730**

受付時間：平日 9：00～17：00（土・日・祝日・夏期休暇・年末年始を除く）

小泉成器株式会社 〒541-0051 大阪市中央区備後町3丁目3番7号

2025年7月現在（所在地、電話番号などについては変更がある場合がありますので、その節はご容赦願います。）